

「鉄工団地 今昔」

北海道計器工業株式会社 取締役社長 西村 求 (にしむら・もとむ)
(北海道生産性本部 前会長)



略歴:昭和44年4月北海道電力㈱入社、監査役、取締役旭川支店長などを歴任し、平成17年6月常務取締役、平成20年6月取締役副社長。同年5月北海道生産性本部の会長に就任し、平成22年5月に退任された。平成22年6月から現職。

昨年7月から札幌発寒の鉄工団地に所在する、北海道計器工業(株)に勤務している。この地域は実は私にとって、40年ぶりの里帰りなのだ。

昭和40年代初め、学生であった私はアルバイトで、夏季だけではあったが三年余り、天狗橋のたもとで鋼材にさび止め塗料を塗布する仕事に精を出していた。あれから40年余りが経過し、又この地で仕事をする事になり、実に不思議な縁を感じている。

当時の鉄工団地はあまり大きな建物もなく、新川の堤防に上ると函館本線南側の木工団地(現在はこの名称はないようだ)が見渡せるような状況であった。先日、昔の面影を探しに歩いてみたが、地形そのものが変わっており、当時の私の仕事場がどこであったか全く分からなくて、少々がっかりしたところである。

現在では、この鉄工団地88ヘクタールに二つの協同組合が組織され、合わせて140を超える企業が進出し、ここで働く人は4,300人を超えるという。まさに隔世の感がする。

この鉄工団地は協同組合のホームページによると、「昭和36年、国の工場等集団化制度による北海道での機械金属製造業の第1号の工場団地として創立した」とあり、現在における道内での規模も有数であると考えられる。昭和36年創立後、高度成長期を支え、さらには第1次、2次のオイルショック、バブル崩壊など数々の経済の荒波を経て現在の姿になったものである。

朝晩の通勤時も、朝早くからまた暗くなってからも機械が動いており、溶接、鉄の匂いが私の体を引き締められている。忙しく働く人たちを見るにつけ、ここは札幌の、そしてまた日本のものづくりの原点であると感じたところである。これからも、さらにさらに発展して欲しいと願っている。

ところで当社は昭和29年設立以来、中央区に事務所・工場を持っていたが、手狭になったこともあり、平成18年2月に現在の場所に移転した。創業以来一貫して、電力用計量器の製造・修理を行ってきたが、最近では電力会社の第一線で必要とする器具の開発製造などにも業容を拡大してきている。

昨今、新聞、テレビではスマートグリッド・スマートメーターの記事が多くなったが、こうした電子式メーターが主流になってくると、現在のように円盤を廻す型の機械式メーターのように修理、再使用がされなくなる可能性もあり、当社の事業内容にも大きな影響が考えられる。電子式メーターの導入がこの先どう進捗していくのか、それにどう対応していくか全社員一丸となって検討しているところである。

こうした変化にも対応し、これからもこの地で操業する140を超える各企業と同様、ものづくりの会社として事業基盤を維持拡大させ、いささかなりともこの地の発展に寄与できればと思っているところである。